

海外派遣留学プログラム報告書

2019. 02. 01-2019. 02. 28



先月から始まったコースの1つに Nordic Culture というコースがあります。これは交換留学生だけが集まるコースで、スウェーデンの文化や自然に触れながらグループワークを通して学んでいきます。コースの中には3つの小旅行が計画されていて、これに参加してレポートを提出することが必須です。写真は先日そのコースで行ってきたスウェーデン中部にある Åre という街です。スウェーデンの中部といっても北極圏の近くに位置する極寒の地です。気温はマイナス 20 度以下になることもしばしばあります。私たちは Åre に着いてまず、ダウンヒルスキーの有名な世界大会のオープニングセレモニーを見に行きました。小一時間外でじっとしていたので全身氷のように動かなくなって痛さを感じるほどでした。

この旅行ではグループプレゼンテーションが課せられていました。最初の日にグループ

分けとプレゼンテーマが発表され、最終日の夜までにプレゼンを完成させることになっていました。私は日本語ですらプレゼンが苦手なので、本当にやりたくなくて気が重かったのですが、グループのメンバーが楽しい人たちだったのでリラックスしてプレゼン発表をすることができました。来月またこのグループでプレゼンをしなければいけないのですが、一回目と同じようにうまくやれたらいいなと思います。



旅行は6日間でしたが、朝起きてから夜寝るまでひたすら英語を話さなきゃいけないのは大変に感じました。新しく仲良くなれた人も沢山いますし、最終日には帰りたくないと思っていましたが、1人の時間が全くなかずずっと誰かと話しているような6日間だったので、久しぶりに団体行動は大変だなと感じました。

一番思い出に残っているのは友達6、7人と一緒に夜、クロスカントリースキーをしに行ったことです。みんながヘッドライトをつけて真っ暗な森の中に入っていくとき、先が全く見えなくてすごくどきどきしたのを覚えています。コテージに戻る前にみんなで雪の上に寝そべて星を見ました。今あなたが想像した星の数の100倍はありました。とりあえず言葉では表せないほどの、美しすぎて写真を撮ろうという気も起こらないほどの、絶景

でした。あれを見れて本当に良かった、そして隣に同じことを考えていたはずの仲間がいて良かったと思います。誰も何も喋らなくなって、景色をしっかりと心に焼き付けるようにただただ空を見つめていました。

コテージに戻った後はそのメンバーでサウナに入って体を温めてから外までダッシュして雪山にダイブ！イッテQの温泉同好会は大変だなあと思いました。

この旅行中に学んだことの1つにサーミ人があります。サーミ人は北欧諸国の北部で暮らす先住民族で彼らはサーミ語という独自の言葉話し、国境という概念を持ちません。私の出身の北海道にもアイヌという先住民族がいて、彼らもアイヌ語を話し元々は国境を持たない民族でした。小学生の時にアイヌについてよく学んだのでサーミ民族についてレクチャーがあったとき、両者の歴史や生活方法、動物との共存に対する考え方がとても似ていて親近感が湧きました。サーミ人と世界のほかの似た民族について、このコースの期末に提出する最終レポートのテーマにして調べてみたいと思っています。

私は小学生のころから空手をやっていて、留学が決まったとき、スウェーデンで空手やったら面白そうだなと考えていました。そんな妄想を叶えるために今月の始め頃からFacebookでリンショーピンにある空手チームを探していました。するとちょうど私と同じ流派の道場をダウンタウンに見つけたので、連絡を取り、練習に参加させてもらえることになりました。

Nordic Cultureの旅行もあったので今月はそんなに多く練習に行けませんでした、いつ行っても道場のみなさんととても優しく歓迎してくれたので、これがスウェーデン人のいいところだなと思えました。実家から道着を送ってもらったので、帰国まで頑張りたいと思います。